

(様式1)

(宛先) 大田区長

参 加 表 明 書

業務の名称 令和6年度 路面下空洞調査委託

標記プロポーザルの技術提案書等を提出する意思がある旨ここに記します。

令和 年 月 日

住 所  
会 社 名  
代 表 者

印

(様式2)

企業の同種の業務実績

(1) 令和元年度以降に完了した同種の業務実績

番号	業務件名	発注者	調査延長 (km)	発見した 空洞数	履行期間
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

注1) 実績は、最大10件まで記入できる。完了した日が新しい順に並べる。実績が10件以上ある場合は、調査延長の大きい案件を優先して記入すること。調査延長とは、道路延長ではなく測線長とする。

注2) 業務の受注及び内容が確認できる書類の写しを添付すること。

(2) 技術コンペ及びプロポーザル方式により令和元年度以降に受注した同種の業務実績

番号	年度	業務件名	発注者	特筆すべき事項
1				
2				
3				
4				
5				

注1) 実績は、最大5件まで記入できる。完了した日が新しい順に並べる。また、技術コンペとプロポーザルの両方の受注実績がある場合は、必ず両方とも記載すること。

注2) 上記(1)に記載した実績と重複して記載することができる。

注3) 技術コンペ、プロポーザルによる受注及び内容が確認できる書類の写しを添付すること。

注4) 「特筆すべき事項」には、技術コンペまたはプロポーザル方式の区別を記入すること。

(3) 令和元年度以降に完了した同種の業務のうち細街路の調査を含む実績

年度	業務件名	発注者	調査した細街路の代表的な幅員 (m)	調査した細街路の道路延長 (m)

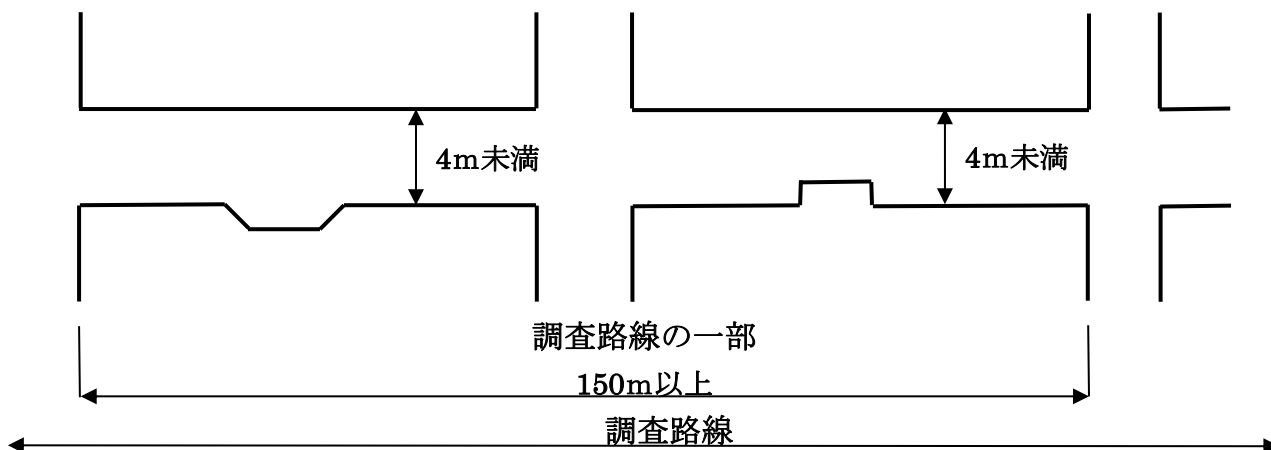
次ページの注意事項を確認すること。

\*本ページは細街路の実績に関する注意点である。技術提案書の提出時に、本ページを提出する必要はない。

注1) 対象となる実績が無い場合は空欄とすること。

注2) 前ページの(1)と(2)に記載した実績と重複して記載することができる。

注3) 本委託における細街路の調査実績の定義は、次のとおりとする。



- ・調査路線の一部に、代表的な幅員（道路の全幅）が4m未満、かつ調査した路線の道路延長が連続して150m以上であること。（代表的な幅員とは、部分的な狭あい部や拡幅部を除いた幅員とする。）
- ・対象とする実績は自走式(車両)による調査とし、手押し式などの自走できない機器による調査は含まない。
- ・対象となる細街路の代表的な幅員と延長が確認できる書類（現況幅員が判別できる道路台帳、受注時の書類などの写し等）を提出すること。ただし、提出する書類は、対象となる路線の一部（延長が150mを超えていること）でも差支えない。また、対象となる実績の受注を確認できる書類を提出すること。

(様式 3)

業務実施体制

種別	予定技術者名	主に担当を予定する業務
代理人		
主任技術者		
担当技術者		
担当技術者		
担当技術者		
担当技術者		
担当技術者		
備 考		

注 1) 「担当技術者」の行が不足する場合は追加すること。

注 2) 他の建設コンサルタント等に当該業務の一部を再委託する場合又は学識経験者の技術協力を受けて業務を実施する場合は、備考欄にその旨を記載するとともに、再委託先又は協力先、その理由（企業の技術的特徴等）を記載すること。ただし、業務の主たる部分を再委託してはならない。

## 配置予定技術者の経歴等 ( )

① ふりがな 氏名		② 年月日			
③所属・役職					
④保有資格					
技術士(部門： ) 分野：		・合格年度		・取得年月日：	
RCCM(部門： )		・登録番号		・取得年月日：	
RCCMと同等の能力を有する者(部門： )		・登録番号		・取得年月日：	
その他(名称 )		・登録番号		・取得年月日：	
⑤同種又は類似業務経歴(令和元年度以降、最大3件)					
業務件名	発注者	調査延長 (km)	発見空 洞数	細街路 の経歴	業務上の立場

注1) 代理人・主任技術者について作成し、( ) 内に区分を記入し、様式番号に枝番を付すこと。

注2) 保有する資格を記入する場合は、資格者証または合格証明証の写しを添付すること。

注3) 「⑤同種又は類似業務経歴」は、業務が完了した日が新しい順に並べること。「様式2(3) 令和元年度以降に完了した同種の業務のうち細街路の調査を含む実績」に記載した業務に従事している場合は、必ず経歴に加えて「細街路の経歴」欄に「○」を記入すること。経歴が3件以上ある場合は、調査延長の大きい案件を優先して記入すること。

注4) 「業務上の立場」については、代理人、主任技術者の区分を記入すること。

調査機器調書

機 材 名	
使 用 目 途	
所 有 者	
機 材 サ イ ズ	全長：            全幅：            高さ：            最低地上高：
仕様・性能・特徴等	
機材写真	

\*記入にあたっては、次ページの注意事項を確認すること。

\*本ページは技術提案書の提出時に、提出する必要はない。

- 注1) 記載する機器の対象は、路面下空洞の探査に使用を予定している全ての機器（路面探査車等）とし、一台ごとに調書を作成して様式番号に枝番を付すこと。けん引式や後付式などの車両と探査機器が一体になっていない場合は、車両と機器の区別を明確にして同一の調書内にそれぞれの項目を記入すること。（例：①けん引車、②被けん引車（探査機器）等）
- 注2) 自動車検査証等の交付を受けている車両については、写しを添付すること。
- 注3) 「機材名」には、自走式・けん引式・手押し式などの、探査機器の区別を記載すること。（例：「自走式路面下空洞探査車（一体型）」等）
- 注4) 「使用用途」には、機器を使用する主な用途の区別（例：一般路調査用、細街路調査用、車両通行不可路線調査用、詳細調査用等）を記載すること。用途が複数ある場合は、全て記入すること。（細街路調査用とは、全幅4mの道路が直交する交差点を、切り返しや機器の分解等をせずに円滑に右左折できる機器とする。）
- 注5) 「機材サイズ」は、機材の最外周の寸法を原則とする。最低地上高は、確認できる場合に記入すること。自動車検査証等の交付対象外の機器については、機材サイズを確認できる書類がある場合は写しを添付すること。
- 注6) 「仕様・性能・特徴等」には、機器の探査方式の仕様やその性能や能力、技術的な特徴を記載すること。具体的には、「探査方式の詳細、解像度、有効探査深度、有効探査幅、探査が可能な最高速度、探査能力（発見できる最少の空洞の縦・横・厚み）、その他の特筆すべき性能や特徴を記入すること。
- 注7) 「機材写真」については次の点に留意すること。
- ・写真が複数になるため所定の欄に収めることができない場合は、欄に「別途添付」と記載して次ページ以降に添付すること。
  - ・機器の斜め前方と斜め後方から撮影し、機器の全容が判明できること。
  - ・ナンバープレート（自動車登録番号票、車両番号票、標識）が表示されている機器については、番号等が明確に判読できるようにすること。
  - ・けん引式などにより容易に機器の全容やナンバープレートが判明しがたい場合は、機器を分離して撮影すること。ただし、写真に「けん引車、被けん引車」などの区別を明記すること。

業務の実施方針（1 ページ以内）

本業務の実施方針（施工計画等）と取組内容（情報セキュリティを含む）の概要について具体的に記載願います。

\*業務実施体制図は別途添付すること。

\*業務に関連する ISO マネジメントやプライバシーマーク等の取得も記入すること。



技術提案等 (1 ページ以内)

本業務の実施にあたり、留意点とその対策、技術的な提案について具体的に記載願います。

[留意点とその対策] 本業務における「探査精度の向上」をテーマに記入してください。

[技術的な提案]自由に記入してください。